

2011.6.3「菅総理、猿芝居はやめよ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は6月3日で、今回のビデオレターは通算100回目であります。いつもご覧いただき、誠にありがとうございます。今日は午後からテレビ放映される参議院の予算委員会で、菅総理や菅内閣の問題について質問致します。

さて、昨日の不信任決議の茶番劇、猿芝居には本当に僻々としてしまいました。民主党内でも菅総理では復興支援も出来なければ統治者能力も無いとされている為、早く菅総理を降ろさなければならないという意見が湧き上がっています。それに呼応する形で谷垣総裁が不信任決議案を提出したわけです。ですから、前日までは小沢氏や鳩山氏を含めた多くの議員が不信任決議案に賛成し、可決される見通しでした。しかし今日になって、菅総理と鳩山氏の間で今解散させてしまっただけでは不味いという思惑の下で密約が結ばれたようです。ところが、不信任案が否決されてしまうと、この約束も合意文書のお互いの解釈を巡って反故にされます。つまり、この人達の発言は全て嘘だということなのです。

私は度々この場で申し上げてきましたが、政治で一番大事なことは言葉そのものです。それは綺麗な言葉を使うということではなくて、自身が発した言葉に対して責任を持つということです。言葉に責任を持つからこそ議論が出来る

のです。ところが、民主党の一番の問題は、その言葉に対して一切の責任を取らないということであり、それを恥ずかしいと全く思っていないところにあります。まさに恥知らずそのものです。それはマニフェストや普天間の問題に顕著に表れています。その普天間の問題で一番迷走した鳩山氏が、今回菅総理と小沢氏の仲介役をされたようですが、そのことが全く茶番だったわけですから、まさに民主党には誰一人としてまともに話せる人間がいないということなのです。私はこのような状況ではまともな議論が出来ないと思っています。では、どうすべきなのか。それは解散総選挙を行って、この方々の首を切る他はないのです。衆議院での不信任案は否決されましたけれども、間違いなく今後然るべき時期に我々自民党は参議院で問責決議案を提出します。そして、問責決議案は可決されるでしょう。その時は間違いなく、菅総理はお辞めになる以外にないのです。

最後になりますが、新聞やテレビなどのメディアが被災地の状況をうつして、「政治家は一体何をしているのだ、今は政争をしている時ではなく被災地の支援を考えてくれ」といった論調の報道をしていますが、私は彼らに馬鹿野郎と申し上げたい。その被災地の支援が出来ていない根本の原因は、菅総理を始め、民主党内閣が機能していないからで、この状況を打破する為には政権交代しかないのです。先日私が被災地を訪ねた時に現地の行政の長の方からも同じ意見を伺いました。マスコミはこのことを分かっているが、紋切り型の報道をす

るわけです。このことに対して私は本当にけしからんと思っています。我々政治家は、マスコミの紋切型報道で隠されている問題を国会の場で国民に訴えていかなければならないと思います。

今日はこのようなことを含めて予算委員会でしっかりと菅政権を追及していきます。今後ともご指導ご支援よろしく申し上げます。ありがとうございました。